

教科目名 情報処理Ⅱ (Information Processing Ⅱ)

学科名・学年 : 制御情報工学科 2年

単位数など : 必履修 2単位 (前期2コマ, 学習保証時間 42時間)

担当教員 : 青木照子

授業の概要			
1年次の情報処理Ⅰで学習したC言語について復習を兼ねて演習を行う。引続いて関数や構造体について講義・演習を行い、C言語の総仕上げとしての総合課題で理解を深める。後半は、C言語の応用言語として Visual C++の講義・演習を行い、Windows 上でのビジュアル的な処理を学習する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(B2), JABEE 目標(c) (d1②)	
(1)1年次に学習したC言語について復習することで、理解度を確認することができる。(定期試験と課題)			
(2)C言語の関数や構造体を学習することができ、C言語について理解を深めることができる。(定期試験と課題)			
(3)プログラミング能力を身に付けることができる。(演習とレポート)			
(4)Windows 上でのアプリケーション開発について、Visual C++から理解できる(定期試験と課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. 1年次の復習	1年次の復習として、下記の課題で理解を深める	【理解の度合い】
2	(1)配列と繰返し	○ 一次元配列を利用したデータの合計	
3	(2)配列とポインタ	○ 2次元配列を利用した表計算	
4	(3)ポインタ配列	○ 文字配列のデータの並び替え	
5	2. C言語の応用		
6,7	(1)関数	○ 一次元配列の合計と平均に関数を利用し、理解する	
	(2)構造体	○ 構造体の定義と構造体へのデータ入力を理解する	
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	○ 自身の理解力を分析し、学習を工夫する。	【理解の度合い】
10	3. Visual C++		
11	(1)VCの基本操作	○ C言語とVC++の違いの理解と基本操作を理解する。	
12	(2)SDI型プログラム	○ VC++の基本プログラムを理解する。	
13,14	(3)ダイアログベースのプログラム	○ コントロールを利用したプログラムを理解する。	
15	(4)実用プログラム	○ 種々の機能を利用して実用プログラムを作成し、VC++の理解を深める。	
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		授業中の演習や課題に重点を置く。欠課は態度点として減点対象となるので決して休まないこと。	
教科書		高田美樹著, C言語スタートブック, 技術評論社 林晴比古著, 新VisualC++6.0入門, ソフトバンクパブリッシング	
参考図書		C言語、VC++に関する参考図書は図書館や書店にたくさんある。	
関連科目		情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅲ	
総合評価		達成目標の(1)~(4)について4回の試験と演習や課題で評価する。 総合評価=0.5×(4回の定期試験の平均)+0.5×(課題の点数)-態度点 態度点は欠課1×2点を最高30点まで減じる。 総合評価が60点以上を合格とする。	
			【総合評価】 点